

110.

616.934.3

小兒ノ赤痢及ビ疫痢ノ經過中ニ見ル
恐ルベキ腸出血ト其ノ處置ニ就テ

田 坂 重 實

[昭和 16 年 6 月 16 日受稿]

第 1 章 緒 言

小兒ノ赤痢及ビ所謂疫痢ノ初期或ハ急性期ニ於ケル治療ニ就テハ、吾々臨牀家ハ甚ダ惱サレルモノデアルガ、尙ホ之等疾患ノ經過中或ハ恢復期ニ見ル恐ルベキ腸出血ノ所置ニ就テハ更ニ困惑セラレル場合ガ多イ。余ノ經驗デハ最近斯カル例ガ益々増加シテ、不幸ノ轉歸ヲ取ルモノ多ク、昨今デハ中毒症狀ガ消退シタト云フダケデハ安心出來ナイ事ニナツタ。而シテ其ノ所置ハ頗ル困難ナル場合多ク、幾度カ不成功ニ終ツタガ、現今下記ノ

方法ヲ取ル様ニナツテカラ、可ナリ好成績ヲ擧グルニ至ツタ。以下最近數年來ノ遭遇例ト、夫レニ對シテ私ノ採ツタ所置トニ就テ略述シ御批判ヲ仰ギ度イト思フ。

抑々諸種ノ出血性疾患ニ於テ、其ノ對症療法ニ至ツテハ皆殆ド同様デアツテ、唯其ノ他ニ考慮スベキ事ハ各症ノ原因ノ療法デアル事ハ申ス迄モナイ。下ニ余ノ經驗セル重症例ニ就テ表的ニ報告スル。

番 號	姓 名	性 別	年 齡	季 節	病 名	原 病	轉 歸	腸 出 血 ノ 前 驅 症	發 病 日 目	腸 出 血 ノ 日 數	腸 出 血 ノ 多 少	腦 症	循 環 障 碍	發 熱	吐 血	止 血 療 法 後 ノ 血 便	輸 血 法
1	市	女	2.0	8	疫	重	死	嘔吐	3日	10日	大量度々	痙攣	著明	高	有	大量度々	度々
2	明	女	1.4	11	赤	重	死	吐血	5日	11日	大量度々	痙攣 神識消失	著明	中	有	大量度々	度々
3	友	男	4.5	8	疫	重	死	腹痛	5日	6日	大量度々	痙攣	著明	中	有	大量度々	度々
4	新	男	3.3	8	疫	重	死	吐血、鎖沈	5日	6日	大量度々	痙攣 神識消失	著明	高	大量度々	大量度々	度々
5	渡	女	3.5	8	疫	重	死	便通頻回	9日	7日	大量度々	痙攣	著明	高	無	大量度々	度々
6	山	男	4.10	8	疫	重	死	嘔吐	3日	12日	大量度々	無	著明	高	有	大量度々	度々
7	吉	女	5.5	7	疫	重	治	倦怠、吐血、 褐色便	2日	5日	中量度々	痙攣	著明	高	有	中量度	度々
8	田	男	4.6	5	赤	重	治	腹痛、黑色 便、吐血	11日	6日	中量度々	無	著明	中	有	中量度々	度々
9	中	女	3.5	8	疫	重	死	嘔吐	3日	8日	大量度々	無	著明	中	大量度々	大量度々	度々
10	藤	男	4.7	9	疫	重	死	吐血、鎖沈、 腹痛	11日	3日	大量度々	無	著明	輕	有	大量度	度々
11	長	女	3.6	11	赤	重	治	欠伸、鎖沈、 食慾不進	3日	8日	中量度々	無	無	輕	無	中量度々	血注 「ビタミンC」
12	神	男	4.11	10	疫	重	死	吐血、鎖沈	3日	4日	大量度々	無	著明	高	大量度々	大量度々	血注 「ビタミンC」
13	北	男	3.0	10	赤	中	治	嘔氣、鎖沈	3日	1日	中量2回	痙攣	無	輕	無	無	血注 「ビタミンC」

番 號	姓 名	性	年 齡	季 節	病 名	原 病 輕 重	轉 歸	腸 出 血 ノ 前 驅 症	發 病 日 何 日 自 出	腸 出 血 日 數	腸 出 血 ノ 回 數 及 量	腦 症	循 環 障 碍	發 熱	吐 血	吐 血 後 ノ 血 便	輸 血 法
14	杉	男	3.9	10	疫	重	治	腹痛, 錯沈, 吐血	5日	4日	中量度々	搐搦 神識消失	著明	高	有	中量度々	血「ビタミンC」注
15	名	男	3.6	10	疫	重	治	腹痛, 錯沈, 吐血	5日	1日	小 量	搐搦 神識消失	著明	高	有	小 量	血「ビタミンC」注
16	本	女	3.8	9	疫	重	死	吐血, 錯沈	6日	3日	大量度々	痙 攣	著明	高	有	大量度々	血「ビタミンC」注

血注ハ母血時ニ父ノ血液ヲ直接ニ患兒ノ臀筋内ニ注射セリ。

上記ノ表ヲ見ルト、男女間ニハ出血頻度ニ於テ大差ハナイ。年齢ハ比較的幼弱ナ者ニ多イ。季節ハ夏季カラ秋季ニカケテ多イノハ原病ノ性質上當然ノ事デアル。又主トシテ所謂疫病ノ場合ニ於テデアル故ニ死ノ轉歸ヲ取ツタモノガ多イガ、コノ死ノ原因ハ大多數ニ於テ腸出血ニ歸スル事ガ出來ル。表中ノ第1, 第2, 第3, 第4, 第5, 第6, 第9, 第10, 第12, 第16ノ如キハコレニ屬スル。腸出血ノ前驅症ハ最モ注意スベク、大警戒スベキモノデアルガ、從來アリシ高熱ハ大分下降シ、重篤ナル腦症、循環障碍ノ症状ガ大分輕快シテ來タニ拘ラズ、不安、蒼白、食思消失、意氣銷沈ガアリ、殊ニ腹痛ヲ訴ヘルモノ、又ハ腹痛ハ訴ヘナイガ其ノ痛相ナル顔貌ヨリシテ腹痛ガアルニ相違ナキヲ他覺的ニ推シ得ル様ナ場合ニハ特ニ注意ヲ要スル。嘔吐、嘔氣殊ニ吐血アルモノハ同様警戒スベキデアル。腸出血前ヨリシテ便ノ回数多ク、赤痢様混血便ノ頻回ナルモノモ注意ヲ要スルガ、之ヨリ回数ハ少クトモ、水様デ褐色ヲ呈スルモノハ大イニ警戒スベキデアツテ、色ノ褐色デアルトイフ事又ハ黒綠色デアルトイフ事ハ、出血ノ前徵デアリ得ルノデアツテ、腸出血ノ多クハ第3乃至5日ニ起ルガ又大イニ遲延シテ12日目ニ起ツタトイフノモアル。腸出血ノ持續日數ハ多種多樣デアルガ、之ハ治療法ガ大イニ關係スル。大出血デアリナガラ11日モ持續シタト云フノハ、輸血ガ頻回行ハレタカラデアツテ、失血ノ爲蒼白、血色ヲ失

ヒ、痙攣ヲ惹起シテ、又ハ神識消失、生色ナキモノデモ、速ニ輸血ヲ適當ニ行フ時ハ、忽然トシテ眼開キ、生色ヲ帶ビ、應答スルニ至ル事ガ屢々アル。出血ノ量又ハ回数ハ出血量ノ程度ニ依ルノデアラウガ、コレ以外ニハ血壓ノ特ニ急速ニ上昇スルガ如キ處置ノ關係スル事モ考フベキデアル。コノ意味ニ於テ不注意ニモ過量ニ、強心劑、葡萄糖、血液等ヲ血管内ニ注入ヘルハ餘程ノ注意ヲ要ス。腦症ハ大多數ニ於テ認メルガ、搐搦位ノ事モアリ、頻回痙攣ヲ起ス者、長時間神識消失、昏睡ノモノモアル。併シ一般ニ腸出血ノ時期ニハ神識明瞭ナルモノガ多イ、循環障碍ハ腸出血前ヨリ著明ナルモノガ多イ。又中ニハ出血ノ初期ニハ既ニ循環障碍ノ恢復ニ近イモノモアル。熱ハ最初高イモノガ多イガ、出血時期ニナレバ大分下降シテ居ルノガ通常デアル。吐血ハ出血ニ前後シテ殆ド總テアル。輸血ハ表中10例ニ於テ施シタ。殊ニ大出血ヲ起シタ者ニハ度々大量ヲ施シタ(全經過中1000,000ニ及ブモノモアル)而モ死ノ轉歸ヲ取ツテ居ル者ノ多イト云フ事ハ、疾病ノ重篤デ出血ノ量ノ著大デアルニ由來スルハ申ス迄モナイガ、病症ヲ氣遣フノ餘リニ少シク遣リ過ギテ、却ツテ結果ヲ不良ニシタカモ知レヌ。表中ノ第11乃至第16ノ6例ハ輸血ヲ行ハズ、唯血液ノ筋肉内注射ニ加フルニ「ビタミンC」劑ヲ注射ヲ施シタ。之等6例中4例ハ治癒シ存外結果ハ良好デアツタガ、コレハ經過ガ輕カッタノカモ知レヌ。腸出血例ニ於ケル原因菌ノ研究ハ最モ必要且興味アル事デアルガ、私ノ少數ニ就テ行フタ例デハ未決デアル。

第2章 治療法

前驅症狀ニ注意シ、豫メ警戒スル事ハ極メテ肝要ナル事デアアル。

治療ノ眼目トスル處ハ、全身及ビ局部ノ可及的安靜ヲトリ、出血ヲ最小限度ニ止メル可ク努力スル事デアアル。コノ目的ノタメニハ絶對的ニ靜臥セシメル事デアアル。必要時間絶食セシメル事デアアル。腸ノ蠕動ヲ止メル事デアアル。止血劑ヲ使用スル事、非經口的ニ水分及ビ榮養ノ補給ヲスル事、榮養法ニ深甚ナル注意ヲ拂フ事等デアアル。

1. 原因の療法トシテハ特ニ有效ナルモノガナイ。
2. 安靜療法 最も重大ナル役割ヲナスモノデアアル。肉體的精神のノ絶對的安靜ヲ命ジ、幼少ニシテ安靜ノトレナイモノニハ鎮靜劑又ハ睡眠劑ヲ内服又ハ注射スル。出血部位ト思ハルル部位、例之ベ右季肋部、廻盲部又ハ下腹部ニ氷罌法ヲ施ス人モアルガ、之等ニ大シタ效果アリトモ思ハレヌ。
3. 食餌療法 1, 2日乃至5, 6日間必要ニ應ジテ絶食セシメル。之ハ意外ニ效價的ナモノデアアル。コノ間水分供給、榮養補給ノ目的ニハリンゲル、葡萄糖液ヲ注射スル。其ノ後極メテ徐々ニ充分ノ注意ヲ拂ヒツツ、10.0—20.0 cc 位宛重湯、葛湯、水飴汁、「スープ」、白湯、茶ノ如キ流動物ヲ2—3時間毎ニ與ヘテ見ル。要ハ大量ヲ1度ニ與ヘテ長キ間隔ヲ置クヨリモ、少量宛ヲ時々與ヘル事、下痢又ハ醗酵ヲ起サナイモノヲ與ヘル事ガヨイ。牛乳卵黃ノ如キハ醗酵シテ鼓腸及ビ下痢ヲ誘發シ易イカラ、止血スル迄ハ與ヘナイ方ガ安全デアアル。牛乳ニ石灰水、「ガラクトサン」ノ如キモノヲ加ヘルカ、又ハ「エレドン」、「アトロゾン」、「コレクト」ノ如キモノヲ與ヘルトコノ憂ハ大分除去セラル。果汁ノ内デハ林檎汁ガ良イガ、之ニヨリ下痢増強スル場合ハ差シ控ヘル事、梨子、葡萄、蜜柑等ハ下痢ヲ起ス事ガアルカラ與ヘナイ方ガ安全デアアル。確實ニ止血シタナラバ徐々ニ榮養價ノアル流動物、次デ半流動物ヲ與ヘル様ニスル。

4. 藥物療法 内服藥トシテハ、年齢ニ應ジテ最初阿法丁幾ヲ5—6滴頓服セシメ、其ノ後ハ1日量5—10滴トシ、毎3—4時ニ分服セシメル。斯クシテ4—5日、又ハ必要ニ應ジテ7—8日連用セシメル。之ニヨツテ蠕動ヲ抑制シ凝血ヲ促進セシメルデアアル。コノ外收斂劑トシテ「エルドホルム」、次硝酸蒼鉛、「タンナルピン」ノ如キヲ、又止血劑トシテ「フィブログエン」、「トロンボゲン」、「オボスタチン」等ヲ用ヒルノモ良イ。注射液トシテハ先ヅ水分榮養補給ノ目的デリンゲル、5.0%葡萄糖「ロツク」ノ如キモノヲ1日1—2回、100.0—500.0cc皮下注射スル。コノ外高張葡萄糖液ノ靜脈内注射、「ヴイタミンB, C」ノ靜脈内又ハ皮下注射、就中「ヴイタミンC」ノ相當大量ノ注射ハ出血豫防上及ビ治療上必要缺クベカラザルモノト思フ。尙ホ血液ノ筋肉内注射ヲ行フ。血液ハ1回量20.0cc前後デヨイ。一般ニ靜脈内注射ニヨツテ急ニ著シク血壓ヲ上昇セシメル事ハ出血ヲ誘發スル動機トナルカラ注意ヲ要スル。血液ノ靜脈内注射即チ輸血ハ以前ヨリ使用シタガ、現今ハ多少控ヘ目ニシテキル。其ノ理由ハ輸血ニ依テ如何ニ注意ヲ拂ツテモ急ニ血壓ノ上騰ヲ招來スルタメカ、潰瘍面カラノ出血ガ注射直後促進セラレト思ハルル場合ガアルカラデアアル、故ニ現今ノ私ノ考ヘトシテハ輸血法ハ、失血ノ量甚大デ、其ノ爲ニ生命ニ危險ノアル場合ニハ躊躇ナク行フガヨイガ、若シ急ヲ要シナイナラバ暫ク他ノ方法ニ讓ツテモ差支ヘナイノミナラズ、却ツテ良イ時ガアルトシテキル。コノ際使用スル血液ハ同型ヲ最良トシ、ソレガ無キ場合ハO型ヲ用ヒル。量ハ失血ノ量ニ從ツテ加減スル。先ヅ最初ニ血液1.0ccヲリンゲル又ハ葡萄糖10.0—20.0ccニ混ジテ徐々ニ靜脈内ニ注射シ、30分乃至1時間後、反應ノ起ラナイ事ヲ確メテ上、所要量20.0cc—50.0cc—100.0ccヲ極メテ徐々ニ注射スル。一般ニ輸血法ハ先ヅ以テ充分ナル注意ヲ拂ハナイト、意外ニ強イ反應ヲ惹起シテ危險ナ事ガアルカラ細心ノ警戒ヲ要スル。止血劑デハ色

色使用シテ見タガ効果ヲ確認シ難カツタ。夫レト云フノモ他ノ場所ノ出血ト異リ腸出血トイフモノガ其ノ臓器ノ性質上、容易ニ止血シ難イノト、止血薬ニ特ニ優秀ナモノガナイカラデア。私ハ好シク「グラチン」、「コアグレン」ヲ用ヒル。コノ外ニ「クラウデン」、「トロンプリン」、人血液、血清、「カルシウム劑」、高張食鹽水等ヲ使用スル事モアル。要スルニ腸出血ハ止血ノ困難ナルモノデアツテ、簡單ニ止血劑位デハ目的ヲ達スル事ハ困難デア。コノ他鎮靜薬又ハ麻醉薬ノ應用ハ屢々肝要デア。何ントナレバ患者ハ腹痛、不安、胸内苦悶等ノ爲ニ安靜ヲトラス、其ノ爲ニ益々出血ヲ大ナラシムルカラデア。 「カルモチン」、「メヂナール」、「ルミナール」、「アダリン」等ノ内服、「ルミ

ナール」、「バビナール」、「パントボン」ノ注射ヲ必要トスル事ガアル。

第3章 結 論

腸出血ニ對スル處置ハ、之ヲ誤ル時ハ却テ有害無益トナリ、遂ニ致死ノ危險ヲ招來スル恐レガアルカラ沈着明徹、適切ナル措置ヲ迅速ニ講ジナケレバナラス。就中輸血法ハ深甚ナル注意ノモトニ行ヘバ有效ナルモノト思フ。又「ヴィタミンC」劑注射ハ豫防、治療上相當效果アルモノナラント思惟ス。

終リニ臨ミ岡山醫科大學小兒科好本教授ノ御厚情ヲ深謝ス。

主 要 文 獻

- 1) 伊東晴彦, 日本小兒科叢書, 第2編. 2) 齋藤秀雄, 實驗醫報, 第59號, 大正8年2月. 3) 箕田貢, 診断ト治療社, 昭和3年2月. 4) 箕田貢, 實驗醫報, 第17年, 第198號. 5) 箕田貢, 實驗醫報, 第22卷, 第253號. 6) 箕田貢, 鹿兒島醫學雜誌, 第11年, 第11號. 7) 下田光造, 武谷止孝, 福岡醫科大學雜誌, 第26卷, 第10號. 8) 原弘毅, 兒科雜誌, 第344號, 昭和6年. 9) 太田孝之, 實驗醫報, 第20年, 第239號. 10) 箕田貢, 東京醫事雜誌, 第2972號, 昭和11年3月. 11) 石橋長英, 疫痢, 金原商店發行, 昭和7年8月. 12) 楳精一, 麻生龍生, 兒科雜誌, 第407號, 昭和9年4月. 13) 田村茂夫, 楳精一, 同門會報, 第53號, 昭和11年2月. 14) 陳維一郎, 同門會報, 第54號. 15) 箕田貢, 遠城寺宗徳, 古賀琢美, 東京醫事雜誌, 第2861號, 昭和9年1月. 16) 岩田太郎, 福岡醫科大學雜誌, 第24卷, 第12卷.

Über die Darmblutung und ihre Behandlung im Verlaufe der Ruhr bei Kindern oder der im Japanischen sogenannten „Ekiri“.

Von

S. Tasaka.

Eingegangen am 16. Juni. 1941.

Wir Kliniker haben stets eine grosse Achtung und Berücksichtigung auf die allgemeine Behandlung gegen Dysenterie von Kindern oder die im Japanischen sogenannte „Ekiri“ insbesondere auf die gefährliche Darmblutung, die in ihrem Verlaufe oder in der Zeit der Rekonvaleszenz plötzlich vorkommt.

Der Verfasser hatte seit einigen Jahren 16 Fälle von schwerer Darmblutung in der Rekonvaleszenz dieser Krankheiten, von denen er in 6 Fällen gute Resultate erzielen konnte, nach der mehrmaligen Bluttransfusion in der kleinen Menge, und dabei auch mit der Darreichung der grossen Menge von Vitamin C.

(Autoreferat)